

1931年から2019年にいたる復興記念館の展示の変遷

公益財団法人東京都慰霊協会 復興記念館* 森田 祐介

Changes in the exhibition at Great Kanto Earthquake Memorial Museum from 1931 to 2019

Yusuke MORITA

2-3-25, Yokoami, Sumida-ku,
Tokyo, 130-0015 Japan

This paper reports the changes of the exhibitions of the Great Kanto Earthquake Memorial Museum, ancillary facilities to the Tokyo Memorial Hall. The exhibitions have been changed into four periods, the first to be 1931-1955, the second to be 1956-1972, the third to be 1973-2012, and the fourth to be 2013-. I will explain each characteristic point of the three periods, and the reasons why they have been changed.

Keywords: The Great Kanto Earthquake, The Great Kanto Earthquake Memorial Museum, Changes in the exhibition

§ 1. はじめに

復興記念館は、東京都立横網町公園内に建つ博物館である。

1923(大正十二年)年9月1日に発生した関東大震災の一大被災地である「陸軍被服廠跡」の北側約半分が現在の都立横網町公園である。

「陸軍被服廠跡」に逃げ込んだ避難者のうち38,000人以上の尊い人命が失われ、周辺地域で回収された遺体もあわせて58,000体以上の火葬が行われたこの地に納骨堂が建てられた。

その後、1930(昭和五年)年に震災記念堂(現:東京都慰霊堂)が建てられ、その堂内に震災の記念品を資料として収集、展示する計画であった。

しかし、想定以上に記念品が集まったため記念堂内の展示空間では「規模狭小充分ノ効果ヲ収メ難キ」[財団法人東京震災記念事業協会清算事務所(1932)]との理由で展示専用の施設が別途必要となり、震災記念堂の付帯施設として翌1931(昭和六年)年に復興記念館が建てられた。

開館当初の収蔵資料は1924(大正十三年)年の「震災復興展覧会」、1929(昭和四年)年の「帝都復興展覧会」、1930(昭和五年)年の「天覧帝都復興記念展覧会」に出展された記念品を含む2,016点であった[高野(2010)]。

建設当初は「(関東大震災の記念品を)永遠に保管陳列し、大正十二年の震災及復興を記念することによって、将来災変に処する社会教化の指導者として後世に伝うる」[財団法人東京震災記念事業協会清算事務所(1932)]ことを目的としており、戦後、1951(昭和二十六年)年の震災記念堂への東京空襲犠

牲者の遺骨合祀を受け、図表、写真、実物資料からなる戦災資料もあわせて展示を開始し現在に至る。

その展示は設立当初から幾度か変更されている。

大きな変革は第一に戦災資料の展示が加わった1956(昭和三十一年)年、第二に無料通年開館が開始となった1973(昭和四十八)年、第三に2011(平成二十三年)3月11日に発生した東日本大震災を受け、関東大震災から90年という節目の年に行われた2013(平成二十五年)年、第四に耐震補強工事に伴い行われた2019(平成三十一年)年の展示変更が挙げられる。

筆者は2019(平成三十一年)年に行った最新の展示変更に関わった。

1931(昭和六年)年の開館時から現在までの展示の変遷を追った上で、最新の展示変更を終えた復興記念館の現状と今後の課題について述べる。

復興記念館は、日本の災害博物館の魁であり、後発の災害博物館は復興記念館のあゆみに学びながら事業展開を行うと思われる。

復興記念館は、国内外の災害博物館の先頭に立ち、その長所短所を本稿で提起しているので、そこから学ぶことがあれば幸いである。

§ 2. 復興記念館の展示の変遷

本章では、はじめに述べた復興記念館の展示の変遷を、【一期】設立当初から日本赤十字社支部病院時代の終わりまで(1931~1955年)、【二期】臨時会館期(1956~1972年)、【三期】無料通年会館期(1973~2012年)、【四期】東日本大震災以降(2013~2021年)

* 〒130-0015 東京都墨田区横網2-3-25
電子メール: mycp1107@gmail.com

現在)の四期に分け、それぞれの期の特色について延べ、時系列に沿って展示の変遷を紹介する。

また、展示変更はその時々管理団体が関与している。

復興記念館は 1931(昭和六)年以降、横網町公園内の建物の一つとして、公園と一括管理されてきた。

戦前は東京市が直接管理を行った。

戦後の 1947(昭和二十二年)年から 2007(平成十六)年は東京都が、指定管理制度が導入された 2008(平成十七)年以降は指定管理者である公益財団法人東京都慰霊協会が管理を行っている(図 1 および図 2)。

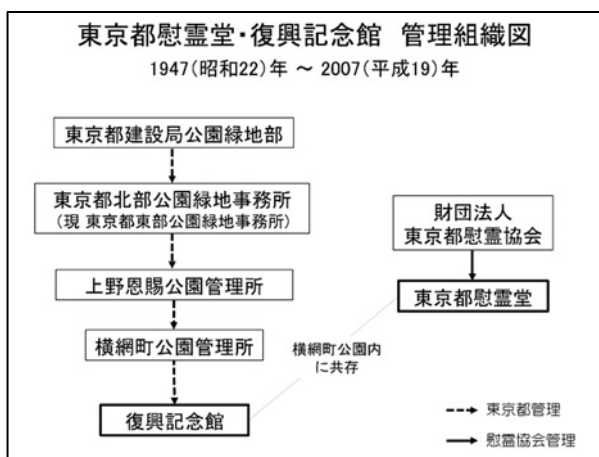


図 1 1947(昭和二十二年)から 2007(平成十九)年の東京都慰霊堂・復興記念館の管理組織図

Fig.1 Management organization chart of Tokyo Memorial Hall and the Great Kanto Earthquake Memorial Museum from 1947 to 2007

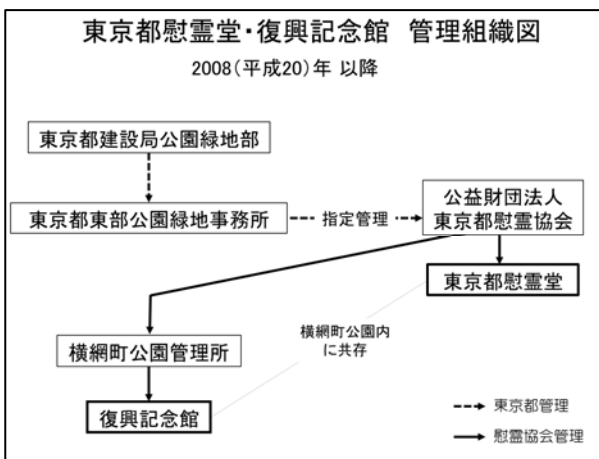


図 2 2008(平成二十年)年以降の東京都慰霊堂・復興記念館の管理組織図

Fig.2 Management organization chart of Tokyo Memorial Hall and the Great Kanto Earthquake Memorial Museum after 2008

2.1 【一期】

設立当初の展示構想は、東京市役所作成のパンフレット『震災復興記念館案内』(図 5)、および財団法人東京震災記念事業協会の事業報告『被服廠跡』(1932 年)に記載された復興記念館の陳列品のリストから読み取ることができる。一階は順路に沿って見学することで「震災の追体験」をするための展示、二階は記録資料により復興事業の全容を学習するための展示とする意図が伺える。一階の展示構成は「震災」(電気時計の焼骸、ビール瓶の溶解等)、「旋風」(旋風に巻き上げられたるトタン板、自転車の焼骸等)、「避難」(案内所標識提灯、米国寄贈の救急具等)、「横死者遺留品」(警察手帳等)、「復興途上」(児童製作の手工芸品等)となっており、リストの記載順に概ね対応している。

戦前の展示状況および戦後の日本赤十字社支部病院時代の館内の様子は資料が乏しく、詳細は不明である。

2.1.1 設立当初

最初期の展示は、復興記念館の竣工までを担った財団法人東京震災記念事業協会が行った。

復興記念館の展示における最古の資料はおそらく、開館当初の展示資料のリスト『昭和六年八月(仮陳列) 復興記念館出品目録』(財団法人東京震災記念

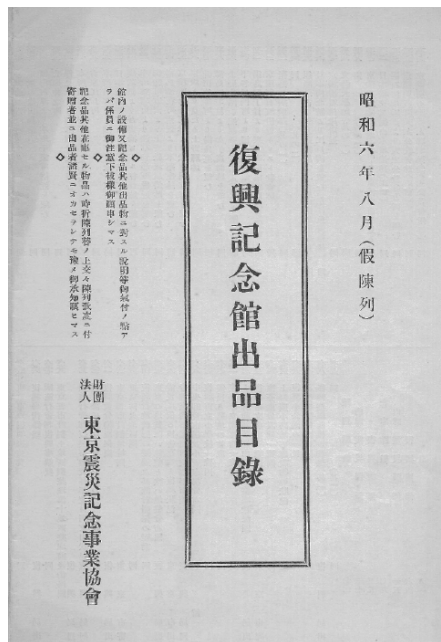


図 3 『昭和六年八月(仮陳列) 復興記念館出品目録』(財団法人東京震災記念事業協会)の表紙

Fig.3 Cover of the list of exhibition materials at the beginning of the Great Kanto Earthquake Memorial Museum

事業協会)である(図 3)。

詳細な展示配置図の印刷された入館案内『震災復興記念館案内 東京市役所』(図 5)は、財団法人東京震災記念事業協会から東京市へ管理が引き継がれ「東京市復興記念館使用条例」が設けられた 1932(昭和七)年 1 月 12 日以降に作成されたと考えられる。

設立当初の展示構成は、一階に震災の被災物や炊出し等の救援救護活動に使用された道具類の「被害・救援」に関する資料、二階に震災を記録した図書、新聞、学術資料等の文書資料、震災を描いた絵画等美術品、復興模型、復興に関する図表や写真等の「記録・復興」に関する資料を展示している。

この展示配置図にはケース位置とカテゴリーが記されているのみであり、展示の詳細な位置は明示されていない。

また『昭和六年八月(仮陳列)復興記念館出品目録』(財団法人東京震災記念事業協会)には「記念品之部」「書籍其他印刷物之部」「模型之部」「図表之部」「寫真之部」という分類で 907 品目の名称と出品・寄贈主の名前が明記されているが、陳列場所は「階下陳列」「階上陳列」「屋外陳列」と示されたのみである。一階には「イ 被災せる印刷機械」「ロ 焼損せる倉庫鉄扉」「ハ 被害セル日本橋高欄」「ニ 破損せる酸

素管」「ホ 焼損せる金庫」「ヘ 震火災による種々の被害品」「ト 焼害を被れる機械類」「チ 罹災者所持品(安田邸跡)」「リ 同(被服廠跡)」「ス 殉職者遺物」「ル 尋ね人調査資料」「ヲ 救助救護関係品」「ワ 炊出に用ゐし釜」「カ 被害せる大鐵骨其他」「ヨ 焼損せる船の一部」、二階には「タ 復興街路模型及繪畫」「レ 震災関係圖表及寫真」「ソ 震災の思出となる圖書新聞の類」「ツ 地震に関する學術的資料」「ネ 財団法人東京震災記念事業協會事業沿革」「ナ 復興関係圖表及寫真」「ラ 復興記念圖書其他」「ム 帝都復興一覽圖表」「震災を追憶する繪畫」「キ 詔書」「ノ 復興模型」「オ 震災を象徴する彫刻『業』」が展示されている。写真資料は展示配置図では二階のみの展示となっているが、『昭和六年八月(仮陳列)復興記念館出品目録』(財団法人東京震災記念事業協会)では「階下陳列」「階上陳列」に分かれて掲載されている。「階下陳列」は主に震災の被害と救援救護に関する写真、「階上陳列」は主に復興に関する写真に分けられている。1931(昭和六)年 8 月 18 日の開館当日に撮影された館内写真(図 4)で一階の写真展示が確認できる。展示配置図は確実ではないが、短期間で全て二階に展示されていた写真のうち一部は階下に移設したと考えられる。



図 4 1931(昭和六)年 8 月 18 日の開館当日に撮影された館内写真。

Fig.4 Photograph of the museum taken on August 18, 1931, the opening day of the Great Kanto Earthquake Memorial Museum

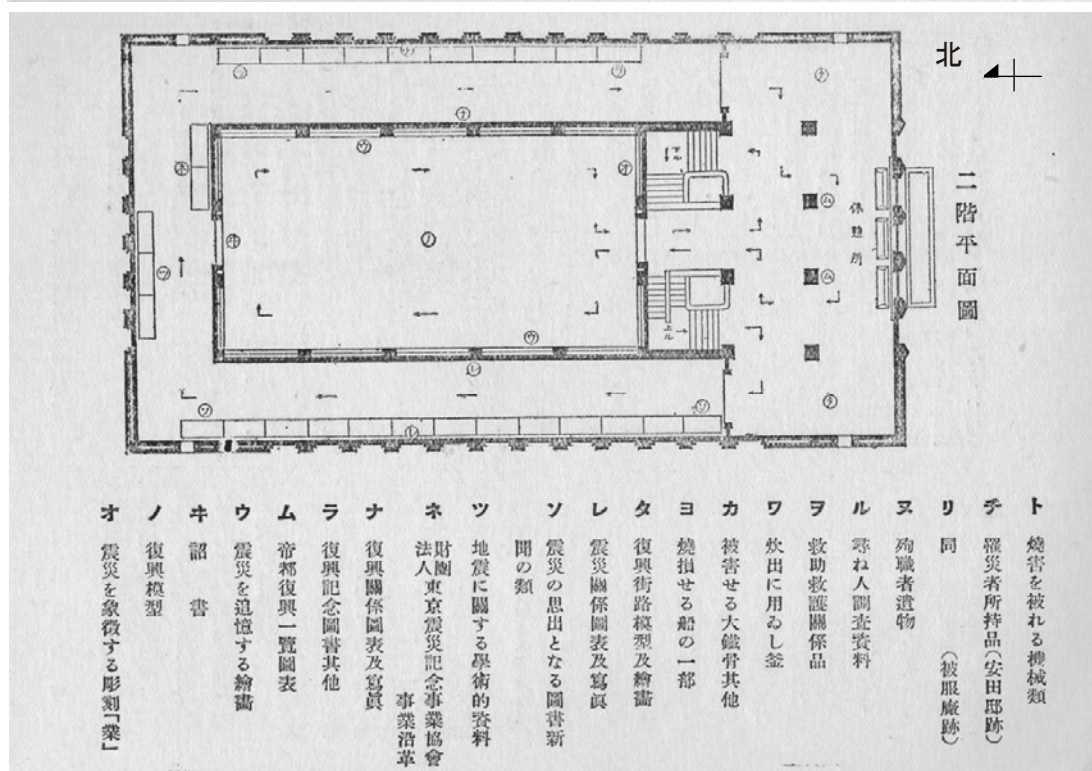
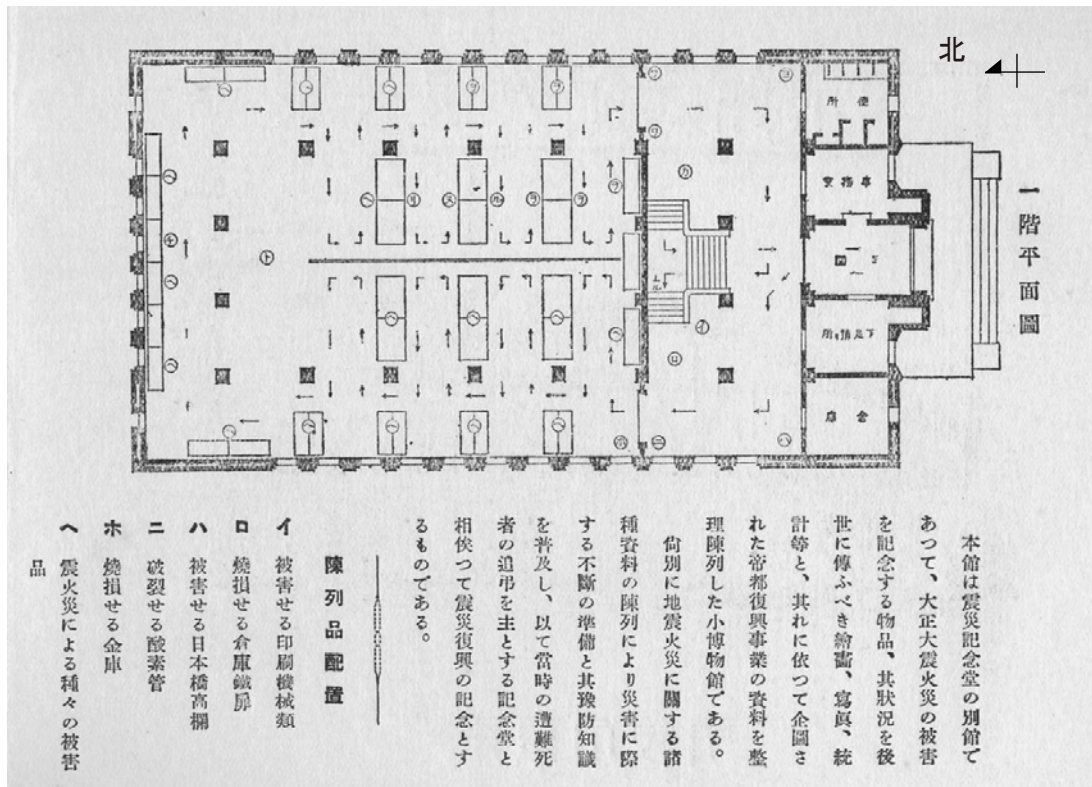


図5 『震災復興記念館案内 東京市役所』 平面図の他、当時の入場料金、入館時間、休館日、観覧規定、震災記念堂および復興記念館の建設工事概要が附記されている。(方位は筆者による追記)

Fig.5 Exhibition plan at the beginning of The Great Kanto Earthquake Memorial Museum. The admission fee, admission time, closed days, viewing regulations, and the outline of the construction work of the Tokyo Metropolitan Memorial Hall and the Great Kanto Earthquake Memorial Museum are attached.

2.1.2 日本赤十字社支部病院時代

1946(昭和二十一年)年9月から1956(昭和三十一年)年3月の間、空襲により多くの医療機関が焼失したため、復興記念館は日本赤十字社の支部病院(両国診療所)として利用されていた。

『東京都慰霊堂参拝の栞』(財団法人東京都慰霊協会 昭和三十年一月 第三版)の復興記念館の紹介には

階下には主として震災被害資料、救護資料、海外救援資料を陳列し、階上には中央を絵画室とし、当時摂政宮であらせられた天皇陛下震災御視察の図他の徳永柳洲氏筆の大油絵、田代二見氏実写の震災直後の写生油絵等と、被害地域大模型等を陳列してある。その周囲の回廊には震災の実況を後世に伝える各種の図表、統計、記録等と、復興事業の全貌を語る各種資料、写真等又他に、震火災に関する学術的資料、震災記念事業協会業績の資料等が整備陳列されてある。

と展示に関する記述があり、また「昭和大戦災直後の臨時措置として、階下は日本赤十字社東京支部診療所に供用されている」と当時の病院利用についても言及している。「階下」とあるため、二階は戦前の展示を保っていたと考えられる。

この期間、博物館としての機能は失われ、復興記念館の収蔵資料の大半は震災記念堂収蔵庫へ移動したとされる。[高野(2010)]. 残念ながら、この時代の館内展示に関する詳細資料は失われており、図面等の資料の発見が待たれる。

2.2【二期】

この時期も展示内容を示す資料は少なく、全容は不明点が多い。

1956(昭和三十一年)年、日本赤十字社より東京都へ復興記念館が返還され、同年震災記念堂に戦災歿死者10万5千体の遺骨を合祀し、名称も「東京都慰霊堂」へと改めた。

それを受け、復興記念館も戦災資料の展示を開始する。

戦災写真を一階に展示した記録が残されているが、具体的な展示構想、内容については不明である。

この時期は高度成長期であり、震災および戦災の歴史への関心が薄れていたと考えられ、そのため東京都慰霊堂、復興記念館とも衰退期であったと新聞記事などから図り知ることができる。

2.2.1 日本赤十字社からの返還後、臨時開館時代

1956(昭和三十一年)年3月、復興記念館は日本赤十

字社より東京都へ返還された。

同年7月、8月に改修工事を行い、9月1日から9日の間、臨時開館した。

改修工事および展示は東京都東部公園緑地事務所の主導で行われたと思われる。

東京都慰霊協会の所蔵する文書「昭和三十二年8月26日 復興記念館の復旧公開について 公園緑地部」には、1957(昭和三十一年)年は当初9月1日から9日の開館を予定していたが、改修工事の影響のため8月31日(土)、9月1日(日)の2日間のみの臨時公開となったこと、および1958(昭和三十三年)年は3月9日、10日の二日間の臨時開館について記録がある。また東京都慰霊協会の所蔵する文書『昭和四十二年8月17日 復興記念館入場者及び収入額調書』には昭和三十九、四十、四十一年度は年間13日開館したと記録がある。

当時の展示について詳細は不明だが 財団法人東京都慰霊協会(現:公益財団法人東京都慰霊協会。以下、東京都慰霊協会)の昭和三十一年度上半期分事業実績書には「今時戦争の記念品の整列陳列を～」の記載があり、戦災資料を展示したと推察できる。当時のパンフレットには下記のように記されている。

東京都におかれては今後は単に震災資料ばかりに止まらず、広く一般都民各位のご協力を得て、今次大戦の災害関係資料の蒐集に重点をおき、これを館内に保存整理すると共に、震災関係資料と併せて展示いたしていく方針とのことですが、本会では今回特に東京都の御好意により9日まで皆様に公開することになったものであります。

臨時展観

本会では今回特に今次大戦の写真の展示をすることになり、東京都市政調査会の御斡旋により都内有力新聞社から貴重な写真の提供を受け館内一階に展示しております。

【1階】主として震災記念物および戦災写真

【2階】復興資料と図表・絵画

また、東京都慰霊協会の所蔵する文書「昭和三十二年8月 東京都慰霊堂付属『復興記念館無料公開』について」には、「新たに警視庁、消防庁及び各新聞社の協力のもと戦災写真100点を陳列した」と記述が残されている。

また、1960(昭和三十五年)年から1961(昭和三十六)年にかけて慰霊堂収蔵庫資料の大規模な調査が行われたが、詳細は不明であり調査資料の発見が待たれる。

2.3【三期】

1970(昭和四十五)年の美濃部都知事の公共サービス無料化政策を受け、復興記念館も1973(昭和四十八)年1月より、現在に至る無料通年開館を開始した。

この期における最大の変更点は「本格的な戦災資料展示の開始」である。

先述の二期で写真展示の開始、戦災資料収集は行われたが、実際の戦災資料展示はこの三期から始まった。

このことにより、「関東大震災の被害状況を後世に伝え、災害に対する不断の準備と予防知識を普及するための博物館」から「震災、戦災という二つの苦難と、力強い復興の歴史を伝える博物館」へと復興記念館の存在意義も大きく変化した。

三期における大規模な展示変更は下記となる。

- ・無料通年開館と同時に本格的な戦災資料の展示を開始した1973(昭和四十八)年の展示変更
- ・1978(昭和五十三)年のエレベーター設置、内装の改修工事に伴う展示変更
- ・2001(平成十三年)の大型震災画移設に伴う展示変更

これらに共通する要素は、改修工事や社会情勢の変化などの要因での展示変更であるという点である。1978(昭和五十三)年以降は展示配置図、リスト等多くの資料が残されており、外的要因を踏まえ臨機応変に展示を構成してきたことがわかる。

以下では上記の変化の内容の詳細を見る。

2.3.1 無料通年開館開始

1973(昭和四十八)年、復興記念館は無料通年開館を開始した。

これに先立つ改修工事は行われておらず、展示に関する資料は発見されていないため詳細は不明だが、二期の展示に戦災資料を加えた形での展示と思われる。

展示の主導は引き続き東京都東部公園緑地事務所だが、施設管理や資料および設備の拡充について、当時の東京都慰霊協会理事長である井下清から東京都知事美濃部亮吉へ宛てられた文書『昭和四十七年1月6日 震災五十周年を迎えて東京都慰霊堂についての陳情』に下記の記述がある。

復興記念館は本会の前身東京震災記念事業協会が建設して、一切を御都へ寄付申し上げた館でありまして、昭和五年我国唯一の関東大震災博物館として創立し、小規模乍ら連日はちきれんばかりに多数都民の入場を迎え、有意義に

利用せられました。

終戦後は非常時の臨時救護施設として、日本赤十字社病院が利用するなどのこともありましたが、返還後は漸く資料を整備し、年間僅かに十三日の臨時開催ですが、年間七～八千人の入場者があります。

現在は震災関係資料二〇〇〇点、戦災資料三三〇点ですが、時代の推移は図表等の資料は改造展示すべき時期に際会しておりますので御都においてこの際整備拡充し、印刷物の刊行視聴感覚による防災知識の普及等「防災資料館」として常時開館し、災害時に対処すべき防災知識の宣揚活動の中心的施設としていただきたいとお願い申し上げます。

ついては

一 館の増築 屋上に百～百五十坪の増築を行い、未展示資料の展示場、視聴感覚教育施設を備えたいこと。

二 資料の整備 図表及統計資料を修理し時代に即応するよう改造整備したいこと。

三 屋外陳列品の保護設備 巨大の屋外展示品は修理し、館内に收容したいこと。

四 尚年々発生する内外の大災害資料を収集展示したいこと。

復興記念館の需要の高さを示す、年間わずか十三日の不定期開館で七～八千人の入場の記録を根拠に、常時開館を提案する内容である。

また、改修に関する要望(提案)も記載されているが、一は実現されず、二、三、四は後年に実現されることとなる。

2.3.2 エレベーター設置および改修工事に伴う展示変更

1978(昭和五十三)年、東京都東部公園緑地事務所の主導により、エレベーターの新設および一階展示室の大規模な改修工事が行われ、それに伴う展示変更が行われた。

『1978(昭和五十八)年頃の展示配置図』を見ると、改修工事により一階展示室の造作壁の位置が大幅に変わっているのがわかる。

また北側に身障者用便所が新設された。

このため展示配置は一新され、順路も旧来の時計回りから、現在と同じ反時計回りへと変更されている。

エレベーター設置は1978(昭和五十三)年2月であり、二階ホール西側に展示されている宮城県沖地震関連資料は1978(昭和五十三)年6月12日発生の地震を指すと思われるため、展示配置図は昭和五十三年6月12日以降に作成されたと考えられる。

また、『1978(昭和五十八)年頃の展示配置図』に

対応する詳細な資料一覧表も残されている。

特筆すべき展示の変更点は、二階回廊展示室北側の戦災資料展示コーナーの登場である。正確な設置時期は不明だが、現在確認出来る資料はこれが初出となる、

展示資料全体のうち、戦災資料の割合は少なく、「これっぽっちか戦災資料」(東京朝日新聞,1973年6月21日)と新聞記事に書かれるなど当時は批判の対象となった。

次に、その他の主な変更点を記述する。

一階の展示構成は設立当初の構成をほぼ踏襲しているが、改修工事の影響で展示位置が大幅に変更されている。

設立当初の展示において震災の追体験を意図した「震火災」、「旋風」、「避難」、「横死者遺留品」の区分は見られなくなり、一階展示室の出口付近(西側)に展示された「復興途上」の資料群が、わずかにその痕跡を残すのみである。

設立当初は一階展示室前(前室)に展示されていた大型被災物のうち「ニ 破損せる酸素管」「ホ 焼損せる金庫」「ワ 炊出に用ひし釜」「ヨ 焼損せる船の一部」が他の大型被災物と一緒に北側に展示されている(それ以外の大型被災物は屋外、および収蔵庫へ移動したと思われる)。

二階の展示構成は、震災復興関連資料と戦災資料という異なる二種類の資料群が展示されることとなった。

二階回廊展示室東側の壁面には田代二見作の復興風景を描いた油彩画、復興関連の図表(復興事業の内容、復興事業の費用)が展示され、展示ケース内には震災関連の文書資料(統計資料、小学生の震災体験文集等)、子どもたちが廃材を利用して作成した工作(バラックの模型、手提げ袋)、石版画(震災画報)、新聞、雑誌等の震災復興に関する資料が展示されている。

二階回廊展示室北側に戦災資料コーナーが設けられ、壁面には戦災関連のパネルと写真、ケース内には実物資料(防空頭巾、配給手帳等)、戦災関連の書籍、雑誌が展示されている。

回廊展示室西側は再び震災復興関連の展示となり、ケース内には児童関連の書籍、児童の描いたクレヨン画、復興事業に使われた工具等が、壁面には近世からの地震の歴史や災害に対する心構えを説いたパネルが展示されている。

二階ホールには復興模型(小名木川筋改修模型、幹線第七号街路模型、幹線第二号模型)、宮城県沖地震に関するパネルと写真が展示されている。

階段途中には4枚の絵画(徳永柳洲作「横浜の全滅」等)が架けられている。

中央展示室(絵画室)にはレリーフ、詔書、復興模型、絵画(有島生馬作「大震記念」、徳永柳洲作「上野公園

より見たる灰燼の帝都」等)の他、王一亭作の水墨画のうち二枚が展示されている。

王一亭の水墨画は、慰霊堂に展示されていた二枚と合わせ、1988(昭和六十三)年までの間に一階展示室北側へ移設された。

2.3.3 大型震災画移設に伴う展示変更

2001(平成十三年)年の展示変更の前後には、下記のような経緯があった。

1991(平成三年)年度に、翌年開館する江戸東京博物館との連携を想定した大規模リニューアルが計画された。その前段として(株)トリガーグループ・ブレインファーム社による展示資料調査(1991年は復興記念館展示資料、1992年から1993年にかけては慰霊堂収蔵庫および復興記念館収蔵庫資料)が行なわれ資料カードの作成が行なわれた。しかし、館内のリニューアルは実施されず、1992(平成四年)年3月に屋外展示資料(屋外ギャラリー)の整備のみ行われた[北部公園緑地事務所、社団法人日本公園緑地協会(1991)]。

2001(平成十三年)年、慰霊堂に大型戦災写真を展示するため、徳永柳洲の震災絵画5点を復興記念館に移設した。

2003(平成十五年)年の地方自治法改正により、公の施設の管理に民間事業者も参加できる「指定管理者制度」が創設され、都立横網町公園も2008(平成二十年)より導入することとなった。以降、東京都慰霊協회가都立横網町公園の指定管理者として、復興記念館の管理運営も行うこととなる。

2006(平成十八)年に神奈川大学非文字資料研究センターが慰霊堂保管写真を調査、写真のデジタルデータ化を実施した[北原(2007)]。

2008(平成二十年)に同じく神奈川大学非文字資料研究センターが慰霊堂保管資料を調査、資料リストを作成した[高野(2009)]。

2001(平成十三年)年、東京都東部公園緑地事務所の主導により、慰霊堂に戦災写真を展示するため徳永柳洲の震災絵画5点を撤去し復興記念館に移設した。

また、二階ホールに女子トイレが新設された。

これらに伴い、展示変更が行われた。

なお、ここまで述べた1991年から2001年の展示変更に関する1991(平成三年)年の展示リニューアル計画は反映されていない。

2001(平成十三年)年当時の復興記念館の展示変更に関する資料は発見されていないが(慰霊堂内の戦災写真と震災絵画に関する資料は現存)、指定管理者となった財団法人東京都慰霊協会が作成した『2008(平成二十年)作成の展示配置図』および『2009(平成二十一年)12月作成の展示配置図』にお

いて、先述の震災絵画の設置を含む変更点が確認できる。

主な展示変更は、慰霊堂に展示されていた徳永柳洲作の大型震災絵画 5 点の移設と、女子トイレ新設に伴う復興模型 3 点(小名木川筋改修模型, 幹線第七号街路模型, 幹線第二号模型)の移動である。

震災絵画は、一階展示室北側に 1 点(東海道根府川付近の崩壊), 階段に 3 点(軍隊の傷病者救護, 赤十字の活動, 自警団), 二階ホールに 1 点(翌日の悲嘆)が展示され, それまで階段に展示されていた絵画は中央展示室と二階ホールへ移設した。

復興模型は二階ホールの中心に並べられ, そこに展示されていた宮城県沖地震に関する展示は撤去となった。

この展示変更の結果, 本来ならば二階中央展示室に展示されるべき記録資料である大型震災絵画を一階に展示することにより「一階＝震災の追体験」「二階＝震災復興の学習」を意図した設立当初の展示構想から遠のいたと考えられる。

次に, その他の変更点を記述する。

一階展示室の展示構成は大きな変更は見られない。展示位置に関しては, 北側の大型被災物の展示スペースが拡大され, それと入れ替える形で東側に展示ケースが移設された。

二階回廊展示室も展示構成に大きな変化は無いが, 展示位置に大きな変更点が見られる。

以前は東側＝震災, 北側＝戦災, 西側＝震災という展示位置であったが, 東側半分に震災, 西側半分に戦災と, 回廊展示室を二分する形に展示位置が変更されている。結果, 戦災資料の展示スペースが大きく広がった。

回廊展示室に展示できなかった震災復興関連資料(震災画報, 坂本尋常小学校「大正震災記念画帖」等)は, 中央展示室に展示ケースごと移設されている。

2.4【四期】

2011(平成二十三年)年に発生した東日本大震災の社会的な影響は大きく, 東京都もそれに対応するべく



図6 『2015(平成二十七年)年の展示配置図』

数字はケース内展示品,ローマ字は壁面展示を示す。

Fig.6 2015 exhibition plan of the Great Kanto Earthquake Memorial Museum,

The numbers indicate the exhibits inside the case, and the alphabet indicates the exhibits on the wall.

2013(平成二十五年)年から2015(平成二十七年)年にかけて、展示変更を行った。関東大震災発生から90年という節目の年も重なり、展示等検討委員会が組織され、展示構想の見直しが行われた。

2017(平成二十九年)年から2019(平成三十一年)年にかけて、東京都による都立施設の耐震化計画の一環として、復興記念館も耐震補強工事を行い、それに伴う大規模な展示変更を行った。

三期と同様、社会情勢の変化や改修工事などの外的要因が発端となる展示変更であるという点は共通している。しかしながら、東日本大震災の発生により、記念館の設置主体である東京都は衝撃を受け、災害展示としての本館の意義を読み直そうとする動きが出た。

2.4.1 2015(平成二十七年)年の展示変更

東日本大震災をうけて、2013(平成二十五年)年から2015(平成二十七年)年にかけて、東京都慰霊協会主導による展示パネル・写真の大幅リニューアルが行われた(図6に示した『2015(平成二十七年)年の展示配置図』および表A参照)。

2013(平成二十五年)年の『復興記念館 展示等検討

委員会 報告書』に、展示構成についての具体的な検討項目として「創設当初は一階:震災発生→被害→避難→救援/二階:復興という流れが明確だったが現在は曖昧になっている。今回のリニューアルではこうした流れを明かにする」と記載されている。

これに沿って、以下のような変更が加えられている。

- ・一階の展示パネルと写真は順路に沿って震災を追体験できるよう、「発生」(壁 A)「被害」(壁 B, C, D, E, F, G,)「救援・救護」(壁 I)の時系列順に変更された。
- ・二階中央展示室から児童の描いたクレヨン画の展示ケースを回廊展示室に移動し、壁面には絵画とレリーフのみ、フロアには模型のみのシンプルな展示へ変更された。

展示ケース内の資料の構成と配置に大きな変更は無く、一階展示室は震災の発生・被害(電気時計、金属の溶解等、ケース1~21)、避難(避難者カード、案内所ちようちん等、ケース22)、幽冥鐘拓本(ケース23)、救援(作業服、フランスから贈られた医療器等、ケース24~28)、二階回廊展示室は震災復興(作文、震災



図7 『2019(平成三十一年)年の展示配置図』
数字はケース内展示品,ローマ字は壁面展示を示す。

Fig.7 2019 exhibition plan of the Great Kanto Earthquake Memorial Museum.

The numbers indicate the exhibits inside the case, and the alphabet indicates the exhibits on the wall.

直後の小学児童制作品、帝都復興ノ議 後藤内務大臣提案等ケース 30～38)、戦災資料(戦災にあった時計、防空頭巾、焼夷弾等、ケース 39～46)となっている。

また、最初に見学者の目に入る震災の「発生」のコーナーに、以降の主要な資料の一角となっている大型パノラマ写真「宮城前広場の避難群衆」が登場する(壁 B)。

2.4.2 2019(平成三十一)年の展示変更

2017(平成二十九)年から2019(平成三十一)年3月までの間、復興記念館の耐震補強工事が行われ、東京都慰霊協会はそれに伴う展示変更を行った(図 7 に示した『2019(平成三十)年の展示配置図』および表 B 参照)。

その際、一階展示室内に耐震補強壁が設置されたため、順路の動線が大きく変更となった。

また、工事以前は自然光も活用した展示となっていたが、太陽光を遮断し紫外線による劣化から展示資料を守るため、採光窓の内側を塞ぎ壁面とした(外観は維持)。

次章では、その詳細について述べる。

§ 3. 最新の展示変更と今後の課題

本章では、耐震補強工事に伴う2019(平成三十一)年3月の展示変更の詳細と、その結果について述べる。

3.1 主な変更点

一階に耐震補強壁が設置されたため、従来の展示、見学順路を維持できなくなり、大変更を余儀なくされた。

展示ケースは震災の発生・被害(電気時計、金属の溶塊等、ケース 1～7, 9)、避難・救援(避難者カード、フランスから贈られた医療器具、案内所ちょうちん等、ケース 10～15)、記録資料・震災復興(河野通勢版画、作文、震災直後の小学児童制作品、帝都復興ノ議 後藤内務大臣提案等、ケース 16～26)の順となり、海外からの支援におけるキーマンである王一亭の関連資料(肖像写真、幽冥鐘拓本、水墨画)はケース 15 に、震災と戦災の両方に関連する教育紙芝居「関東大震災」はケース 27 に展示した。

展示パネルと写真は「発生・被害」(壁 A, B, C, ケース 9)「救援・救護」(壁 D, ケース 15)、記録資料(東京震災画信等、壁 E)、復興関連(壁 F, G)に変更した。

また、紫外線を遮断するために採光窓を塞ぎ壁面

とした。

その他の展示および設備面での主な変更点を下記に挙げる。

- ・見学者の震災・戦災の混同(時系列に関する混乱)を解消するため、従来の「一階:震災発生→被害→避難→救援/二階:復興→戦災」から「一階:震災(発生→被害→避難→救援・救護→復興)/二階:戦災」に変更した。ウォールケース(ケース 15)を採用し、マネキンを使った衣料の着用状態の再現、フランス国旗、尋ね人係提灯等の大型資料の展示において、高さを活かした迫力ある展示が可能となった。
- ・大型被災物の架台をひな壇状にし、より立体的で臨場感のある展示に変更した。
- ・太陽光に代わる LED スポットライトを増設した。
- ・「通行の妨げになる」「落ちていて見学(観賞)できない」という理由から、以前より懸案となっていた階段途中の絵画展示を廃し、階段途中と一階北側に展示されていた徳永柳洲の震災絵画四枚を二階ホールに移動し、中央展示室の作品と併せて鑑賞しやすい配置に変更した。それに伴い、ホールに展示されていた復興模型 3 台は中央展示室内北側に移動した。

3.2 変更の結果と今後の課題

一階展示室の順路の変更については、概ね一方向となったため、見学者が迷うことなく震災の「発生」「被害」「救援救護」、そして「復興」までを迫体験することが容易になった。2019(平成三十一)年の展示変更以前は前半(南側)に解説パネルが集約され後半(北側)は展示ケースのみの配置であり、後半は見学の自由度が高い反面、各ケース内の資料の関係性がわかりづらく、どのケースから見学するべきか悩ましいという印象があった。2019(平成三十一)年の展示変更以後は展示ケースが解説パネルの展示された壁に沿って設置されているため、順路通りに見学することでパネルの情報と展示資料が紐付けられ、より見学者の理解を深める助けになっていると考えられる。

その他の変更点であるウォールケース、段差を設けた大型被災物はより効果的な展示となり功を奏していると思われる。

二階ホールおよび中央展示室への復興記念館内の徳永柳洲の震災絵画の移動に関しては、集約することで震災絵画の迫力が伝わりやすくなったことは間違いない。しかし、震災絵画の設置位置確保のためホールに展示していた震災模型を中央展示室に移

動させたため、中央展示室に資料が密集する結果となった。密度が高くなったため迫力が生まれ見学者の模型に対する興味を高めることに繋がる反面、見学の動線が狭まり見通しと利便性が悪くなった。旧来の解説板を省スペースで設置できる新しいものに変更する等、空間の利用方法を検討する必要があると思われる。

一階と二階の震災展示、戦災展示の区分の変更について、震災と戦災の時間的な混同を解消する試みはある程度成功したと思われる。しかし、2019(平成三十一)年の展示変更以前は全体の約75%以上を占めていた震災展示のスペースが、変更後は約60%と大幅に縮小となり、資料を厳選し展示を行うこととなった。シンプルで洗練された印象を得た反面、圧倒的な物量による震災被害の深刻さを伝えるエネルギーが減退した感は否めない。

展示に関する今後の課題としては、シンプルで見学しやすくなった点を保持しつつ、変更前の震災の深刻さを伝えるエネルギー溢れる展示に近づけるよう、展示方法を模索していく必要がある。

また、展示のみならず、設備の面でも改善の余地を多く残している。

新規で大量導入した覗き型展示ケースのフレームの太さが災いし、見学者の視界に入る限られた位置にしか資料を展示できないことも展示資料数の減少の一因となっている。限られたスペースを活かしより多くの資料を活用するため、今まで以上に展示ケース内の資料の入替えを行う必要が生じた。

「工事前の雰囲気踏襲する」という設計意図により、内装は白を基調とする明るめの色で整えられている。1931(昭和六)年の設立当初は被災当事者への心理的影響を考慮し、明るい内装が採用されたと考えられるが、LED照明下では内装の明るさが際立ってしまい、復興記念館の展示における重要な要素である「災害の深刻さ」が伝わり難くなった感は否めない。時間の経過により被災当事者の来館が無くなった今、この明るい内装と照明がどれほどの意味を成すのか疑問である。

二階中央展示室に関しては、LEDスポットライトの燈体数が圧倒的に不足しており、そのため絵画を効果的に照らすことができず、展示を活かしているとは言い難い。

設備(ハード)、展示(ソフト)ともに継続して改善を行い、今後も「震災・戦災の歴史を伝える博物館」として、より意義のある展示を目指す必要があると考える。

§4. おわりに

2019(平成三十一)年3月、耐震補強工事を経て、展示リニューアルは様々な課題を残しつつ完了した。

概ね2017(平成二十九年)年の段階で計画した展示

構成となったが、この展示計画に「展示構想」は無く、可能な限り変更前の展示ストーリーを変えず「見やすい展示」を目指すものだったため、総じて薄味となつてしまい、災害の深刻さを訴えるパワーが衰えた感は否めない。

復興記念館の「展示構想」については、設立当初は明確な「震災の追体験」と「復興事業の学習」という役割があった。

その後は戦災資料展示の追加、幾度かの改修工事、東日本大震災の影響等による社会情勢の変化など「外的要因」ありきの展示変更が行われたが、明確な「展示構想」は見出せない。

これは、都市公園法に基づく復興記念館の位置付けが「横網町公園内の一施設」であるため、博物館として研究や展示に精通する専門職員の常駐する体制ではなかったことが理由と考えられる。そのため当時の管理団体の職員が復興記念館の運営も担っており、従って展示変更に関しても学術的、専門的な視点での「展示構想」は無いまま、変更前の状態を維持しつつ変更要素を加えるという手法が続いていた。

2013(平成二十五年)年の展示変更では、有識者を交えた展示構成等検討委員会が組織され、設立当初の展示構成を意識した「原点回帰」と言える展示構想が成された。しかし、実際の展示変更は専門職員の不在、展示変更に関する実働を担当する職員や委託業者の経験不足など、マンパワー不足が主な原因となり、部分的な実現に留まった。

今後もマンパワー不足を解消せず、外的要因に対処する形での「展示構想なき展示変更」を繰り返すとうなるのか。おそらく展示の根幹である「震災の追体験」「復興事業の学習」という設立当初のコンセプトの形骸化は進み、関東大震災の記憶の風化とともに「災害博物館」ではなく「歴史博物館」へとその役割が変わり、災害に対し警鐘を鳴らすという役目は失われてしまうだろう。

そうならないために、今後どのようにすべきか。

まず、「展示構想」ありきの展示への変更が必要と思われる。

そのためには、有識者を交えた展示検討委員会を組織し「展示構想」を固め、知識、経験等を考慮し実行力のあるメンバーで構成された展示変更実行委員会を別途組織してそれを実現することが重要と考える。

また、実作業を建設会社等の外部業者に委託する際も、博物館展示に関する知識、経験、モチベーションの高さなど一定の基準を設け、厳選することも重要である。

来る2023年は、関東大震災から100年という節目の年であり、新聞、テレビ等のマスメディアを始め復興記念館への世間の関心が高まると予想される。

今後発生し得る大災害に対し警鐘を鳴らすことができる絶好の機会のため、速やかな展示の整備を行

う必要があると考える。

表 B 2019(平成三十)年の復興記念館展示資料略表。
図 7 『2019(平成三十)年の展示配置図』に対応。

謝辞

本著の執筆を勧めていただき、丁寧にご指導くださった北原糸子氏をはじめ、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

対象地震:1923 年関東地震

文 献

- 北部公園緑地事務所, 社団法人日本公園緑地協会,
1991, 横網町公園復興記念館展示調査報告書,
1-38.
- 北原糸子, 2007, 関東大震災の写真(東京都慰霊堂保管)について, 歴史災害と都市 : 京都・東京を中心に : 報告書(立命館大学 21 世紀 COE プログラム, 神奈川大学 21 世紀 COE プログラム [編]), 57-72.
- 公益財団法人東京都慰霊協会, 2013, 復興記念館展示構成検討委員会報告書, 18.
- 公益財団法人東京都慰霊協会, 2017, 東京都慰霊協会 七十年の歩み, 208-213.
- 高野宏康, 2009, 東京都慰霊堂保管・関東大震災関係資料について, 年報非文字資料研究 (5)(神奈川大学非文字資料研究センター), 65-94.
- 高野宏康, 2010, 「震災の記憶」の変遷と展示—復興記念館および東京都慰霊堂収蔵・関東大震災関係資料を中心に—, 年報非文字資料研究 (6)(神奈川大学非文字資料研究センター), 46, 50.
- 東京朝日新聞, 1973, 6 月 21 日
- 財団法人東京震災記念事業協会清算事務所, 1932, 被服廠跡 財団法人東京震災事業協会事業報告書, 203.
- 財団法人東京都慰霊協会, 1955, 東京都慰霊堂参拝の栞, 5.

資 料 (付 録)

復興記念館関連年表

表 A 2015(平成二十七年)年の復興記念館展示資料略表。図 6 『2015(平成二十七年)年の展示配置図』に対応。

復興記念館関連年表

	年	月 日	出来事
一期	1923(大正十二年)	9月1日	11時58分 関東大震災 発生
	1924(大正十三年)	9月1日	上野自治会館にて「震災復興展覧会」が開催される(～同年9月30日)
	1929(昭和四年)	10月19日	東京市政会館にて「帝都復興展覧会」が開催される(～同年11月10日)
	1930(昭和五年)	3月24日	「天覧帝都復興記念展覧会」が開催される
	1930(昭和五年)	8月20日	震災記念堂(現:東京都慰霊堂)竣工
	1931(昭和六年)	4月17日	復興期記念館 竣工
	1931(昭和六年)	7月4日	皇后陛下復興帝都御巡啓に際し、開館前の復興記念館にお立ち寄りになる
	1931(昭和六年)	8月18日	復興記念館 開館
	1941(昭和十六年)	12月8日	太平洋戦争 開戦
	1945(昭和二十年)	3月10日	東京大空襲
	1945(昭和二十年)	8月15日	太平洋戦争 終戦
	1947(昭和二十二年)	2月21日	復興記念館、日本赤十字社支部病院(両国診療所)として使用開始
	1951(昭和二十六年)		震災記念堂に東京空襲犠牲者の遺骨10万5千体を合祀。同年10月、記念堂は「東京都慰霊堂」に名称を変更
	1956(昭和三十一年)	3月31日	日本赤十字社より東京都に復興記念館が返還される
二期	1956(昭和三十一年)	7月	復興記念館改修工事
	1956(昭和三十一年)	9月1日	臨時開館(～同年9月9日)。戦災写真の展示を開始
	1957(昭和三十二年)	3月9日	臨時開館(～同年3月11日)
	1957(昭和三十二年)		復興記念館改修工事。同年8月、戦災資料の募集を開始
	1957(昭和三十二年)	9月	工事の遅れにより二日間のみ臨時開館
	1958(昭和三十三年)	3月9日	3月9日、10日の二日間のみ臨時開館
	1958(昭和三十三年)	9月	以降、1966(昭和41)年まで春秋慰霊法要時のみ臨時開館の記録有り
三期	1970(昭和四十五年)		公共サービス無償化政策により都立庭園等が無料開園
	1973(昭和四十八年)	1月	復興記念館も無料通年開館開始。本格的に戦災資料の展示を開始
	1978(昭和五十三年)	2月	エレベーター竣工
	1978(昭和五十三年)	6月12日	宮城県沖地震 発生
	1991(平成三年)		大規模リニューアル計画(実現せず)。(株)トリガーグループ・ブレインファーム社による展示資料の調査実施
	1992(平成四年)		(株)トリガーグループ・ブレインファーム社による慰霊堂収蔵庫資料の調査実施。屋外展示コーナー整備
	1993(平成五年)		(株)トリガーグループ・ブレインファーム社による復興記念館収蔵庫資料の調査実施
	1994(平成六年)		江戸東京博物館 開館
	1995(平成七年)	1月17日	阪神・淡路大震災 発生
	2001(平成十三年)		慰霊堂に戦災写真を展示するため、徳永柳洲の震災絵画5点を復興記念館へ移設。二階ホールに女子トイレ新設。展示変更を実施
	2003(平成十五年)		地方自治法改正により「指定管理者制度」が創設
	2006(平成十八年)		神奈川大学非文字資料研究センターが慰霊堂保管写真を調査、写真のデジタルデータ化を実施
	2008(平成二十年)		都立横網町公園、指定御管理者制度を導入。以降公益財団法人東京都慰霊協会が指定管理者となる
	2008(平成二十年)		神奈川大学非文字資料研究センターが慰霊堂保管資料を調査、資料リストを作成
2011(平成二十三年)	3月11日	東日本大震災 発生	
四期	2013(平成二十五年)		関東大震災から90年。展示パネル、写真のリニューアル開始
	2015(平成二十七年)		展示パネル、写真のリニューアル完了。展示変更を実施
	2017(平成二十九年)	10月6日	復興記念館改修工事 開始。耐震補強工事に伴う展示室リニューアル開始
	2019(平成三十一年)	3月5日	復興記念館改修工事 竣工。耐震補強工事に伴う展示室リニューアル完了。展示変更を実施

出典:財団法人東京震災記念事業協会清算事務所,1932,被服廠跡 財団法人東京震災事業協会事業報告書。
 公益財団法人東京都慰霊協会,2017,東京都慰霊協会 七十年の歩み。
 公益財団法人東京都慰霊協会,2013,復興記念館展示構成検討委員会報告書。

表A 展示資料略表(2015年)

展示位置	ケース・壁面	区分1	区分2	主な資料	摘要	資料数
1階展示室	1	震災	発生	ガラスの溶解,陶磁器,電気時計等	被災物,生活用品等	7
1階展示室	2	震災	発生	洋菓子の焼焦品,古鏡	被災物,生活用品等	2
1階展示室	3	震災	発生	象牙の彫刻,印材の熔塊,翡翠,数珠,腰提用水晶	被災物,貴金属等	5
1階展示室	4	震災	発生	日本刀,短刀等	被災物,刀剣類	13
1階展示室	5	震災	発生	電話器,交換台等	被災物,電話機器	6
1階展示室	6	震災	発生	バンド類,置時計,コイン,警察手帳	被災物,被服麻跡	4
1階展示室	7	震災	発生	金属の塊まり,釘類の熔塊,ねじ等	被災物,金属の溶解	14
1階展示室	8	震災	発生	ガラスの溶塊	被災物,ガラスの溶塊	10
1階展示室	9	震災	発生	瀬戸食器類,雑煮茶碗,茶托等	被災物,陶磁器	11
1階展示室	10	震災	発生	陶器の焼品,石鍋	被災物,陶磁器	10
1階展示室	11	震災	発生	花差,花器(銅製),猫の香炉等	被災物,陶磁器,金属器	8
1階展示室	12	震災	発生	万年筆,眼鏡,時計,カメラ,印鑑	被災物,万年筆,眼鏡,時計,カメラ,印鑑	26
1階展示室	13	震災	発生	古銭の焼塊,天保銭,銅貨の焼塊等	被災物,紙幣,貨幣	11
1階展示室	14	震災	発生	金庫型貯金箱,紙幣,手さげ金庫及びその他	被災物,紙幣,貨幣	3
1階展示室	15	震災	発生/記録	河野通勢版画,扇風機,アイロン,利用器具,ミシン	河野通勢版画 被災物,扇風機,アイロン,利用器具,ミシン	17
1階展示室	16	震災	発生/記録	河野通勢版画,金盥,製菓用銅製平鍋,石油燈の破片,鉄平鍋	河野通勢版画 被災物,鍋	12
1階展示室	17	震災	発生/記録	河野通勢版画,消火器の被害,被害消火栓	河野通勢版画 被災物,消火器,消火栓	11
1階展示室	18	震災	発生/記録	河野通勢版画,タイプライター	河野通勢版画 被災物,タイプライター	11
1階展示室	19	震災	発生	地藏面像,寒山拾得(常滑焼き),元禄美人像(青銅製)等	被災物,置物,仏像,彫刻	17
1階展示室	20	震災	発生	計量器,大学の記章,バイオリン,国語辞典,顕微鏡等	被災物,顕微鏡,大学記章,楽器,楽譜,辞典	15
1階展示室	21	震災	発生	帝国劇場装飾物の被害品,金属製水差し,源森橋の名板,大理石の破片等	被災物,建造物の一部,帝国劇場,ニコライ堂	15
1階展示室	22	震災	救援・救護	案内所ちょうちん,避難者カード,炊き出し用しゃく,照明器具等	救援,救護	10
1階展示室	23	震災	救援・救護	幽霊鐘の拓本	王一亭	1
1階展示室	24	震災	救援・救護	アメリカの諸新聞綴り,アメリカ国内での義捐金募集ポスター等	海外からの支援	7
1階展示室	25	震災	救援・救護	作業服,洋服上下,大工道具,カンテラ	海外からの支援	4
1階展示室	26	震災	救援・救護	枕,毛布,厨具(台所用具)	海外からの支援	4
1階展示室	27	震災	救援・救護	ケツテル(大型),壺と吸口,水入れ	海外からの支援	3
1階展示室	28	震災	救援・救護	フランスから贈られた医療器具	海外からの支援	1
1階展示室	57	震災	発生	自転車の焼焦,両国橋名板,炊き出し釜,鬼瓦等	大型被災物,救援,救護,その他	19
1階展示室	A	震災	発生	関東地震の発生,地震起象等	パネル,写真,額,その他	8
1階展示室	B	震災	発生	宮城前広場の避難群衆,改変され被服麻に	写真	2
1階展示室	C	震災	発生	地震直後の銀座,炎上中の帝劇と警視庁等	写真	6
1階展示室	D	震災	発生	関東大震災の被害状況,台風の影響による強風,大阪朝日新聞付録 鳥瞰図等	パネル,額,その他	7
1階展示室	E	震災	発生	東京市の被害状況,銀座周辺の航空写真等	パネル,写真	7
1階展示室	F	震災	発生	陸軍被服麻跡の大惨事,陸軍被服麻の火災動態図,被服麻跡に白骨の山等	パネル,写真	7
1階展示室	G	震災	発生	上野駅前埋める避難者,焼けた両国国技館等	写真	7
1階展示室	H	震災	救援・救護	王一亭氏写真,寒山大士図,拾得大士図,鉄拐仙人図,蝦蟇仙人図	写真,絵画	5
1階展示室	I	震災	発生	交番に伝言の張り紙,アメリカ国内での赤十字義捐金募集ポスター等	パネル,写真 救援救護,海外からの支援	12
1階展示室	J	震災	発生	関東大震災を歩く,復興進む日本橋周辺,被服麻ノ分割図	パネル,写真,額,その他	11
1階展示室	K	震災	発生	東京復興事業の内容,海外友邦震災義援金品等	パネル,額,その他	18
1階展示室	Y	震災	記録	東海道根府川付近(徳永柳洲)	絵画	1
2階 中央展示室	53	震災	復興	帝都復興展覧会出品模型 隅田公園付近(台東区・墨田区)	復興模型	1
2階 中央展示室	54	震災	復興	帝都復興展覧会出品模型 東京市五千分の一模型(焼失した都心部)	復興模型	1
2階 中央展示室	55	震災	復興	帝都復興展覧会出品模型 第一号幹線昭和通の一部模型	復興模型	1

※筆者調べ,資料名の表記は復興記念館データベースに準拠する(2020年11月現在)

2階 中央展示室	Q	震災	記録	素	彫刻	1
2階 中央展示室	R	震災	記録	大震災記念(有島生馬),花屋敷(徳永柳洲)等	絵画,写真	5
2階 中央展示室	S	震災	記録	麹町五番町御巡視撰政宮殿下(徳永柳洲),詔書等	絵画,額,その他	4
2階 中央展示室	T	震災	記録	本郷元町より見たるお茶の水附近,当夜の永代橋,上野公園より見たる灰燼の帝都(いずれも徳永柳洲)等	絵画	5
2階 中央展示室	U	震災	記録	軍隊の炊事出作業	絵画	1
2階 ホール	50	震災	復興	帝都復興展覧会出品模型 小名木川筋改修状況(江東区)	復興模型	1
2階 ホール	51	震災	復興	帝都復興展覧会出品模型 第七号幹線八重洲橋付近(東京駅前)	復興模型	1
2階 ホール	52	震災	復興	帝都復興展覧会出品模型 第二号幹線九段坂付近(靖国神社前)	復興模型	1
2階 ホール	56	震災	その他	南関東地方における地震震度深度別立体分布模型	その他	1
2階 ホール	P	震災	記録	空日の悲嘆(徳永柳洲),ニコライ堂を望む	絵画	2
2階 回廊展示室	30	震災	記録	阪本尋常小学校「大正震災記念画帖」	児童関連 文集・出版物	1
2階 回廊展示室	31	震災	記録	『東京市小学校児童 震災記念文集』、『日誌 大正十二年十二月十五日起』(緑尋常小学校),復興と児童問題等	児童関連 文集・出版物	11
2階 回廊展示室	32	震災	復興	震災直後の小学児童制作品,手提袋等	復興関連	10
2階 回廊展示室	33	震災	震災記念堂・復興記念館	震災記念堂模型,寄附金基帳(寄附金者名簿),大正大震災記念建造物競技設計図録等	慰霊堂・復興記念館・慰霊協会	6
2階 回廊展示室	34	震災	復興	震災死亡者氏名調査書類綴 原簿其他 昭和二年二月起,大正十二年大震災火災記念物品・絵画資料募集復興記念館入場券等	復興関連 慰霊堂・復興記念館・慰霊協	10
2階 回廊展示室	35	震災	復興	帝都復興ノ議 後藤内務大臣提案,帝都土地区画整理に就て,帝都復興院事務経過(秘)等	復興関連	7
2階 回廊展示室	36	震災	復興	(ポスター)土地区画整理,土地区画整理当選標語等	復興関連	6
2階 回廊展示室	37	震災	復興	元町公園案内,中和公園案内,十思公園案内等	復興関連	7
2階 回廊展示室	38	震災	その他	紙芝居『関東大震災』	紙芝居	1
2階 回廊展示室	39	戦災	空襲	戦災にあった時計,防空頭巾,鉄かぶと等	生活用品等	11
2階 回廊展示室	40	戦災	空襲	紀元二千六百年日本万国博覧会抽選券付回数入場券,軍隊手帳,奉公袋,警防手帳等	万博入場券,軍隊手帳等	27
2階 回廊展示室	41	戦災	空襲	購買通帳,家庭用醤油通帳,衣料切符,罹災証明書等	配給手帳,配給切符	11
2階 回廊展示室	42	戦災	空襲	空襲にあった硬貨,百円紙幣・聖徳太子,戦時郵便貯金切手等	貨幣,紙幣,戦時国債	13
2階 回廊展示室	43	戦災	空襲	戦災にあった日本刀,サーベル等	刀剣類	8
2階 回廊展示室	44	戦災	空襲	鉄かぶと,防毒マスク等	鉄かぶと,防毒マスク,飯ごう	7
2階 回廊展示室	45	戦災	空襲	防毒マスク,飯ごう,水筒,焼夷弾,焼夷弾の破片	防毒マスク,水筒,焼夷弾	7
2階 回廊展示室	46	戦災	空襲	疎開先からの手紙	疎開先からの手紙	1
2階 回廊展示室	J	震災	記録	東京災難画信(竹久夢二)	額,その他	21
2階 回廊展示室	L	戦災	空襲	日米開戦,主要な全国戦災都市一覧,戦災消失図,空襲下の東京ビルの消火作業等	パネル	17
2階 回廊展示室	M	戦災	空襲	戦時下の学徒,東京空襲一覧,隣組防空壕の防空訓練,学生も戦場へ,警視庁屋上から見た銀座爆撃等	パネル,写真	17
2階 回廊展示室	N	戦災	空襲	大型爆撃機B29,東京大空襲,戦災復興,戦災犠死者改葬事業,吾妻橋方面から見た本所周辺,焼け跡に建つバラック住居等	パネル,写真	29
階段	V	震災	記録	自警団(徳永柳洲)	絵画	1
階段	V	震災	記録	作者不詳	絵画	1
階段	W	震災	記録	軍隊の傷病者救護(徳永柳洲)	絵画	1
階段	W	震災	記録	赤十字の活動(徳永柳洲)	絵画	1
階段	X	震災	記録	春日町より水道橋を望む	絵画	1

合計 619

表B 展示資料略表(2019年)

展示位置	ケース・壁面	区分1	区分2	資料	摘要	資料数
1階展示室	1	震災	発生	電気時計、洋菓子の焼焦品、象牙の彫刻、数珠、翡翠	被災物、電気時計、洋菓子、貴金属類	5
1階展示室	2	震災	発生	銅貨の焼塊、大学の記章、釘類の熔塊、ビン・ガラス類の溶塊	被災物、金属、ガラスの溶解	6
1階展示室	3	震災	発生	万年筆、眼鏡、時計、カメラ、顕微鏡、印鑑	被災物、万年筆、眼鏡、時計、カメラ、顕微鏡、印鑑	9
1階展示室	4	震災	発生	ぞうに茶碗、椀茶々碗、瀬戸物類の熔解 きゅうす、瀬戸食器類	被災物、陶磁器	4
1階展示室	5	震災	発生	ガスロ・ポルト、源森橋の名板、大理石の破片、金属製水差し	被災物、建築物類	5
1階展示室	6	震災	発生	交換台、電信鍵孔機、電話器、タイプライター	被災物、機械類	4
1階展示室	A	震災	発生	関東地震の発生、関東大震災の被害状況、東京市の震度分布と被害、地震現象等	パネル	17
1階展示室	B	震災	発生	宮城前広場の避難群衆、黒煙の中の日比谷交差点等	写真	15
1階展示室	7	震災	発生	バンド類、置時計、コイン、警察手帳	被災物、被服麻跡	4
1階展示室	C	震災	被服麻跡	陸軍被服麻跡の大惨事、陸軍被服麻跡区域図、陸軍被服麻の火災動態図、被服麻跡に白骨の山	パネル、写真	4
1階展示室	8	震災	その他	震度別立体分布模型	その他	1
1階展示室	9	震災	発生	帝国劇場装飾物の被害品、地震面像、日本刀、扇風機等	被災物、帝国劇場、彫刻類、刀剣類、アイロンスミン、扇風機、理容用具	28
1階展示室	10	震災	救援・救護	避難者カード、炊き出し用ししやくはし	救援、救護	3
1階展示室	11	震災	救援・救護	アメリカの諸新聞綴り、母国震災救済事業記念写真帳	海外からの支援	2
1階展示室	12	震災	救援・救護	毛布、枕、フランスから贈られた医療器具、大工道具、カンテラ	海外からの支援	5
1階展示室	13	震災	救援・救護	厨具(台所用具)、ケトル(大型)、壺と吸口、水入れ	海外からの支援	4
1階展示室	13	震災	救援・救護	水入れ	海外からの支援	1
1階展示室	14	震災	救援・救護	フランスから贈られた医療器具	海外からの支援	1
1階展示室	D	震災	被害の様子・避難	被害の様子避難状況、流言飛語による治安の悪化、列車に飾りの避難民、文書に伝言の紙の紐等	パネル、写真	13
1階展示室	15	震災	救援・救護	木製車椅子、案内所ちょうちん、作業服、アメリカ国内での義捐金募集ポスター、幽霊鐘の拓本、泰山大土図等	救援、救護、海外からの支援 王一孝関連	16
1階展示室	16	震災	記録	河野通勢版画	河野通勢版画	6
1階展示室	17	震災	記録	河野通勢版画	河野通勢版画	6
1階展示室	18	震災	記録	阪本尋常小学校「大正震災記念画帖」	児童関連 文集・出版物	1
1階展示室	19	震災	記録	東京市小学校児童 震災記念文集、日誌 大正十二年十二月十五日(尋常小学校)復興と児童問題等	児童関連 文集・出版物	11
1階展示室	20	震災	記録	大震災絵巻Ⅰ、大震災絵巻Ⅱ	高増経草絵巻物	2
1階展示室	E	震災	記録	東京災難画信(竹久夢二)	額・その他	21
1階展示室	21	震災	復興	帝都復興ノ義 後援内務大臣提案、清浦首相ニ呈スルノ書(草案)、帝都復興院事務経過(秘)、土地区画整理大講演会(案内)等	復興関連	8
1階展示室	22	震災	復興	土地区画整理当選標語(ポスター)土地区画整理	復興関連	2
1階展示室	23	震災	復興	震災復興展覧会ポスター、震災直後の小学児童制作品、手提袋	復興関連	10
1階展示室	24	震災	復興	元町公園案内、中和公園案内、十思公園案内等	復興関連	7
1階展示室	25	震災	震災記念堂・復興	(ポスター)震災記念堂建設資金募集、寄附金基帳(寄附金者名簿)、大正大震災記念建築物競技設計図録	震災堂・復興記念館、震災協会	3
1階展示室	26	震災	震災記念堂・復興	震災記念堂模型、大正十二年大震災火災記念物品、絵画資料募集、復興記念館入場券	震災堂・復興記念館、震災協会	5
1階展示室	27	震災	その他	紙芝居「関東大震災」	紙芝居	1
1階展示室	F	震災	復興	復興進む日本橋周辺、復興した浅草仲見世等	写真	5
1階展示室	G	震災	復興	被服麻ノ分割図、海外友邦罹災義援金品、東京復興事業の内容等	額・その他	20
2階 回廊展示室	28	戦災	空襲	戦災にあった時計、タバコケース、お守り	生活用品等	9
2階 回廊展示室	29	戦災	空襲	奉公袋、軍隊手帳、従軍手帖、陣中日誌、戦陣訓、勅諭集、軍事教育補充兵、第二国民兵必携	手帳1 軍隊手帳類	7
2階 回廊展示室	30	戦災	空襲	体力手帳、職業能力申告手帳、青年訓練手帳、警防手帳、警防団訓練関係規定輯、国民労務手帳	手帳2 その他手帳	6
2階 回廊展示室	31	戦災	空襲	鉄かぶと、飯ごう、水筒、防毒マスク等	ガスマスク、水筒、飯ごう	8
2階 回廊展示室	32	戦災	空襲	焼夷弾、焼夷弾の破片	焼夷弾	2
2階 回廊展示室	33	戦災	空襲	衣料切符、購買通帳、家庭用醤油通帳、国の宝 妊産婦加配通帳等	配給手帳切符関連	14
2階 回廊展示室	34	戦災	空襲	空襲にあった硬貨、百円紙幣・聖徳太子等	貨幣、紙幣	9
2階 回廊展示室	35	戦災	空襲	しころ帽、刺子防火服、防空頭巾、鉄かぶと隣組防空壕の防空訓練等	衣料品、装備品、写真	10
2階 回廊展示室	H	戦災	空襲	日米開戦、戦災消失図、大型爆撃機B29、東京大空襲、終戦等	パネル	13
2階 回廊展示室	I	戦災	空襲	戦時下の学徒 監視庁屋上から見た銀座爆撃、吾妻橋方面から見た本所周辺等	写真	32
2階 回廊展示室	36	戦災	空襲	徴兵検査通達書、罹災証明書、戦争保険申込書等	国債、その他証明書	11

※筆者調べ、資料名の表記は復興記念館データベースに準拠する(2020年11月現在)

2階 回廊展示室	37	戦災	空襲	戦災にあった日本刀、サーベル	日本刀	8
2階 回廊展示室	38	戦災	空襲	紀元二千六百年日本万国博覧会抽選券付回数入.東京都営電車自動車共通回数乗車券.戦時下の切手等	切手,その他金券	12
2階 回廊展示室	39	戦災	空襲	疎開先からの手紙	疎開先からの手紙	1
2階 回廊展示室	J	戦災	復興	戦災復興.復興への道.東京の戦災復興計画.戦災犠死者改葬事業.空襲により廃墟と化したる東京.焼け跡に建つバラック住居様	パネル,写真	16
2階 中央展示室	40	震災	復興	隅田公園模型	復興模型	1
2階 中央展示室	41	震災	復興	幹線第1号模型	復興模型	1
2階 中央展示室	42	震災	復興	大東京模型	復興模型	1
2階 中央展示室	43	震災	復興	小名木川筋改修模型	復興模型	1
2階 中央展示室	44	震災	復興	幹線第七号街路模型	復興模型	1
2階 中央展示室	45	震災	復興	幹線第二号模型	復興模型	1
2階 中央展示室	L	震災	記録	業	彫刻	1
2階 中央展示室	M	震災	記録	大震災記念(有島生馬).麹町五番町御巡視摂政宮殿下.花屋敷.(いずれも徳永柳洲)等	絵画	6
2階 中央展示室	N	震災	記録	詔書.御心を悩ませられる摂政宮殿下(石井伯亭)	絵画	2
2階 中央展示室	O	震災	記録	本郷元町より見たるお茶の水附近.上野公園より見たる灰燼の帝都.横浜の全滅(いずれも徳永柳洲)等	絵画	5
2階 中央展示室	P	震災	記録	軍隊の炊事出作業(徳永柳洲)	絵画	1
2階 ホール	Q	震災	記録	自警団(徳永柳洲)	絵画	1
2階 ホール	R	震災	記録	徳永柳洲画伯肖像(茶山兎吉).軍隊の傷病者救護.東海道根府川付近(いずれも徳永柳洲)	絵画	3
2階 ホール	S	震災	記録	赤十字の活動.翌日の悲嘆(いずれも徳永柳洲)	絵画	2
2階 ホール	46	震災	その他	箱,ルーペ,硯等	徳永柳洲遺品	11
2階 ホール	47	震災	その他	煙草盆.時計.将棋の駒等	徳永柳洲遺品	17
1階展示室	48	震災	発生	自転車の焼軀.両国橋名板.橋梁裝飾物の被害品.胸像等	大型被災物	17

合計

480